

コロナ禍における公運審の動きと 見えてきた新しい公民館のあり方



昨年2年ぶりに復活した本多公民館まつり

基調発表

令和3年6月提出の答申を含む
公運審の取組

国分寺市

リレー発表

現在、答申を作成している公運審の取組

狛江市・国立市・東大和市

シンポジウム

狛江市・国立市・東大和市・国分寺市

ファシリテーター：倉持伸江さん
(東京学芸大学准教授)

グループワーク・発表

参加者同士で取組を話し合い、
交流します。

日時・会場

10月1日(土)

午後1時30分～4時

国分寺市立本多公民館

国分寺市本多1-7-1

コロナ禍が始まって2年が経過しました。その間、多くの公民館が閉館したり、活動の制限を受けてきました。そのような状況下でも学びを継続させるために各市の公民館運営審議会は試行錯誤してきました。

「ウィズコロナ」社会における制限緩和の流れの中で見えてくる新しい公民館のあり方を探ります。

■対象：都公連加盟市公運審委員
公民館・社会教育関連施設
利用者など

■定員：45人(各市4人程度)
※委員部会員除く

■申込：在住市の公民館及び
社会教育関連施設窓口へ

■問い合わせ
東京都公民館連絡協議会
委員部会事務局

国分寺市立もとまち公民館 久保
TEL 042-325-4221

E-mail
motomati-Kouminkan@city.kokubunji.tokyo.jp



メール